



住宅と牛舎の間に設置されたハッヂ

は育牛は健康状態の観察や、人間に慣れさせるためにも、住宅と成牛舎の間など人が通る機会の多い場所で管理します。

左の様な配置にすると、住宅と成牛舎の往復の際には育施設の前を通ることとなり、観察の機会が多くなります。

環境

は育牛はウイルスや細菌に感染しやすく、また、寒さに対しての抵抗力も弱いものです。そのため、設置場所の環境が重要となります。

排水

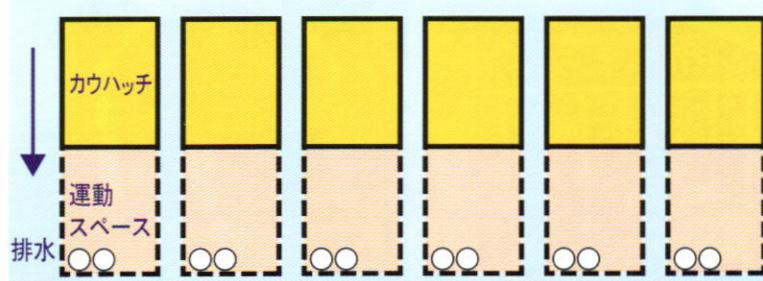
雨水がハッヂ内にたまらないように、入り口側に傾斜をとります。地盤は砂などを厚く敷き、排水を促すとともに、冬期間、凍り付くことを防止します。

設置間隔

ハッヂの間は子牛同士が接触しない程度の間隔をとります。また、使用後移動させて掃除・消毒を行うスペースも必要です。

設置方向

入り口を南東～南側に向けて設置し、冬期間に風が吹き込むことを防ぎ、日光が中まで入るようにします。また、夏場の西日を遮るようにします。



ハッヂ設置のポイント

- ・子牛同士が接触しない間隔を開ける。
- ・入り口側に傾斜をつける。
- ・入り口を南東～南方に向ける。

カーフハッチ・ペン ~構造・寸法・素材・価格~

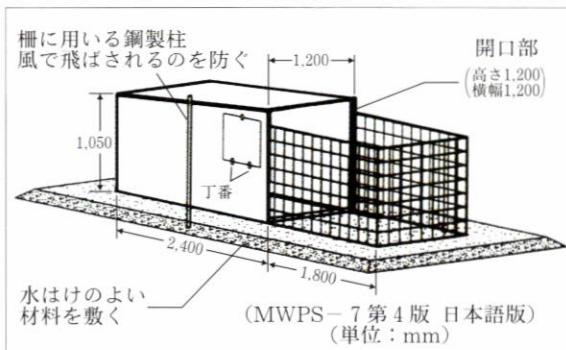
カーフハッチ・ペンの利用は、生まれてきたばかりの子牛を、病気・環境から守り十分な栄養を与え、順調に発育させるために有効なものです。

カーフハッチ・ペンは様々な形態がありますが、換気が良く、乾燥した牛床で、単飼することができ、ある程度運動ができるものが望まれます。

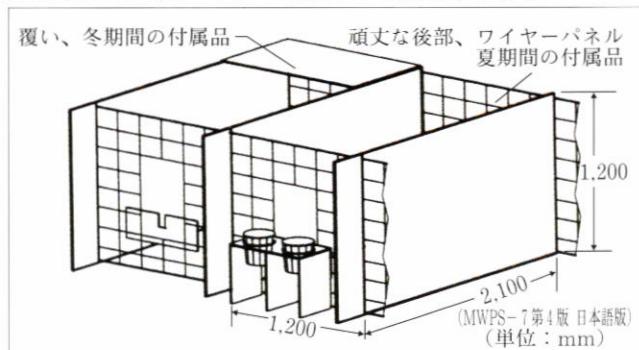
カーフハッチの構造・寸法

カーフハッチの標準的な大きさは、幅1.2m×奥行き2.4m×高さ1.2mです。運動できるように柵を設置したり、チェーンでつなぐようにします。排水の良いように砂や粗粒火山灰等を敷き、ハッチ内に水がたまらないように傾斜を付けます。中にはスノコを利用して事例もあります。冬はすき間風を防ぐため、気密性が必要となります。また、夏の暑さ対策として、奥の壁に開閉可能な窓の設置や、奥の壁を取り外せるような構造にする必要があります。

建物の中で子牛を飼養する場合には、ペンを設置する方法もあります。基本的な考え方はカーフハッチと同じです。換気の良い建物に設置する必要があります。すき間風と子牛同士の接触感染防止のため、仕切りは柵でなく板が望ましいです。寒冷時期は後ろ半分くらいを、コンパネなどで覆ったり、生まれてすぐの子牛は、毛布などで暖かくする気遣いも必要です。



カーフハッチの構造と寸法



ペンの構造と寸法

カーフハッチの素材

カーフハッチの素材は、木製、FRP製のものが多く見られます。日光を遮らない素材のものは、温度が上昇しすぎる場合があるので注意が必要です。

ペンは鉄柵や木製枠で簡単に作成して建物内に設置するタイプから建物に据え付けるタイプがあります。



木製個別ペン
(設置タイプ)



個別ペン
(据え付けタイプ)



FRP製ハッチ
(パドック方式)